

財政局等保有土地に係る調査について（報告）

1 趣旨

スポーツができる環境づくりについて、「財政局 保有土地一覧（平成28年度末現在）」から、次のとおり未利用地について調査しましたので御報告します。

2 調査方法

「財政局 保有土地一覧（平成28年度末現在）」掲載の土地から、次の条件をすべて満たすものを抽出し、土地形状（平地、斜面地、樹林地等）及び暫定的利用の可能性について所管課にヒアリングを実施しました。

なお、交通局及び水道局については、該当する土地がありませんでした。

【抽出条件】

- ① 保有面積 : 1,000 m²以上
- ② 事業の状況 : 「事業中」「供用済」以外
- ③ 貸付の状況 : 「未決定」及び一部のみ「暫定利用」「地元開放」「まちはらっぱ」として利用中

3 調査結果

「財政局 保有土地一覧」に掲載されている土地	930か所
抽出条件を満たすもの	52か所
暫定的な利用が検討できる土地	8か所

※ 詳細については、別紙1のとおり

財政局 保有土地一覧(抽出版)

別紙 1

	区	町名	地番	保有面積 (㎡)	所管局・所管課	貸付の状況	現状	暫定利用の可否	その他・備考
1	神奈川	三ツ沢上町	156外	7,523.20	健康福祉局環境施設課	一部暫定利用中	傾斜地。市道を挟み南北に分断。	不可	
2	西	みなとみらい五丁目	52街区外	73,518.47	財政局管財課	一部暫定利用中	公募売却及び事業中	不可	
3	中	山手町	22-3,6	1,327.08	財政局管財課		売却に向け調整中	不可	
4	南	永田東二丁目	1345-10,44外	1,065.15	財政局管財課		更地(擁壁上宅地)		住宅地に隣接
5	南	蒔田町	1018-85,1023-24	1,210.57	財政局管財課		貸付け予定	不可	
6	港南	上大岡西二丁目	339-1外5	1,095.20	財政局管財課		貸付け予定	不可	
7	保土ヶ谷	今井町	486-1	2,920.77	環境創造局緑地保全推進課		傾斜地(樹林地)	不可	
8	保土ヶ谷	岩崎町	41-1	1,958.71	道路局企画課		がけ地(樹林地)	不可	
9	保土ヶ谷	狩場町	118-1外	1,084.57	道路局河川事業課	一部暫定利用中	暫定利用中	不可	
10	旭	桐が作	1527-1外	1,595.07	財政局管財課		更地(宅地状に5段に整備済)	不可	
11	旭	川井本町	126-1	1,919.81	財政局管財課		貸付け予定	不可	
12	磯子	岡村四丁目	800-1	4,168.10	環境創造局緑地保全推進課		建物あり(解体中)	不可	
13	磯子	岡村七丁目	1452-107外5	2,301.88	財政局管財課	一部地元開放	貸付け予定	不可	
14	磯子	洋光台五丁目	3-1外3筆	3,981.33	財政局管財課	一部暫定利用中	公募売却中	不可	
15	金沢	東朝比奈一丁目	2398-21外	1,240.88	財政局管財課		更地		住宅地に隣接
16	金沢	釜利谷南二丁目	1533-128,1628-15	2,522.02	財政局管財課		貸付け予定	不可	
17	港北	篠原町	1051外10	2,605.16	都市整備局都心再生課		更地		住宅地に隣接
18	港北	篠原町	2572-4外	2,164.51	都市整備局都心再生課		樹林地(一部更地)	不可	
19	港北	師岡町	401-5,402-3	1,094.71	道路局企画課		がけ地(樹林地)	不可	
20	緑	寺山町	910-15	1,983.51	財政局管財課		傾斜地(樹林地)	不可	
21	緑	北八朔町	1047-1,1048-4	1,835.87	財政局管財課		更地(一部傾斜地あり)		住宅地に隣接 一部傾斜地あり
22	青葉	美しが丘西三丁目	3-11	1,148.00	財政局管財課	一部暫定利用中	利用していない部分は変形地	不可	
23	青葉	荏子田二丁目	31外	11,432.00	教育委員会教育施設課		更地		住宅地に隣接 平成21年頃までは地域開放の実績あり
24	青葉	大場町	909-2	1,385.37	財政局管財課		更地(一部傾斜地あり)		住宅地に隣接 一部傾斜地あり
25	青葉	奈良町	1490-1,2	1,001.44	道路局河川事業課		がけ地	不可	
26	都筑	あゆみが丘	9	5,969.00	財政局管財課		傾斜地	不可	

財政局 保有土地一覧(抽出版)

	区	町名	地番	保有面積 (㎡)	所管局・所管課	貸付の状況	現状	暫定利用の可否	その他・備考
27	都筑	早渕一丁目	16-10	2,280.85	道路局企画課		暫定利用中	不可	
28	都筑	早渕二丁目	18-29外2筆	1,122.91	道路局企画課		分譲地	不可	
29	戸塚	上柏尾町	215-3, 216-2	1,702.43	財政局管財課		傾斜地	不可	
30	戸塚	上倉田町	1395-2, 1426-5	1,171.71	道路局企画課		がけ地(樹林地)	不可	
31	戸塚	下倉田町	1474-153外36筆	7,064.58	道路局企画課		分譲地	不可	
32	戸塚	下倉田町	1954-2外	2,388.05	道路局企画課		がけ地(樹林地)	不可	
33	戸塚	下倉田町	1855, 1858, 1956外	1,147.90	道路局企画課		がけ地(樹林地)	不可	
34	戸塚	原宿五丁目	2279, 2281	1,502.70	財政局管財課		敷地中央に水路敷あり	不可	
35	戸塚	東俣野町	60-2外	13,684.57	環境創造局緑地保全推進課		傾斜地(樹林地)	不可	
36	栄	飯島町	1648外	6,113.61	道路局企画課	一部暫定利用中	がけ地(樹林地)	不可	
37	栄	笠間三丁目	601-2外4筆	5,565.76	財政局管財課	一部暫定利用中	公募売却予定	不可	
38	栄	公田町	1089-4	3,459.00	財政局管財課		がけ地(樹林地)	不可	
39	栄	田谷町	1436-1	2,013.11	環境創造局緑地保全推進課		傾斜地(樹林地)	不可	
40	栄	東上郷町	894-51	1,169.59	財政局管財課		更地		住宅地に隣接 近隣の「まちはらっぱ」は、H29 年度に廃止
41	栄	東上郷町	992-219	1,065.03	財政局管財課		変形地	不可	
42	栄	飯島町	461-8外17筆	2,796.67	道路局企画課		がけ地(樹林地)	不可	
43	栄	飯島町	1863-3	1,215.61	財政局管財課		更地(敷地内に斜路あり)	不可	
44	栄	本郷台三丁目	2767-42	3,973.15	道路局企画課		分譲地	不可	
45	栄	本郷台五丁目	245, 331, 332外	2,212.71	道路局企画課		分譲地	不可	
46	泉	中田北二丁目	2114-1外	1,852.90	財政局管財課		更地		住宅地に隣接
47	泉	中田西四丁目	317-7	1,083.29	道路局企画課		樹林地	不可	
48	泉	中田東一丁目	1616-1外	12,705.21	建築局住宅政策課	一部町のはらっぱ	傾斜地(樹林地)、 水路あり	不可	
49	瀬谷	阿久和西四丁目	1-36外1筆	1,043.44	道路局企画課		暫定利用中	不可	
50	瀬谷	阿久和南四丁目	9-5外7筆	3,646.37	道路局企画課		変形地	不可	
51	瀬谷	上瀬谷町	47-7外23筆	12,239.82	建築局市営住宅課	一部暫定利用中	利用していない部分 は変形地	不可	
52	瀬谷	下瀬谷二丁目	25-13外2筆	10,080.50	建築局住宅政策課		傾斜地(樹林地)	不可	

平成29年度健康づくり・スポーツ推進特別委員会中間報告書 構成（案）

1 付議事件

運動による介護予防等あらゆる世代の健康づくり及び大規模スポーツイベント開催やスポーツ関連施設の整備等スポーツの振興に関すること。

2 今年度の調査・研究テーマ

スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げについて

3 テーマ選定の理由

横浜市は、4つの多彩なプロスポーツチームが活躍している国内屈指の都市であり、世界トライアスロンシリーズ横浜大会などの国際大会が開催されるとともに、市民参加型のスポーツイベントも開催され、横浜マラソンには多くの申し込みがあるなど、市民のスポーツに対する関心は非常に高い。

また、ラグビーワールドカップ2019™の決勝戦や東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を2年後、3年後に控えている状況であり、大規模スポーツイベント開催に向けた機運の醸成やイベント開催に伴う経済効果、開催後にも残るレガシーの創出、国内外から訪れる皆様のおもてなしの仕方などの調査・研究が必要である。

さらに、全ての市民がスポーツに親しみ、健康で心豊かに生き生きと暮らすことができる社会の実現が望まれており、スポーツをする場所の確保やスポーツに接する機会も重要になるため、ふだんからスポーツに親しめる環境づくりも意識して調査・研究を行うこととした。

4 委員会活動の経緯等

(1) 6月9日 委員会開催

ア 議題

平成29年度の委員会運営方法について

イ 委員意見概要（別紙参照）

(2) 8月31日 委員会開催

ア 議題

平成29年度の委員会運営方法について

イ 調査 研究テーマに関連する本市の取り組みの概要（出席局・市民局）

（当局説明の概要を記載）

ウ 委員意見概要（別紙参照）

(3) 9月28日 市内視察実施

横浜国際総合競技場の施設概要等

(4) 9月28日 委員会開催

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について

イ 市内視察の感想や意見交換（出席局・市民局、環境創造局）

ウ 委員意見概要（別紙参照）

（5）11月30日 委員会開催

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について

イ 調査 研究テーマに関連する本市の取り組みの概要（出席局・市民局、環境創造局）

ウ 委員意見概要（別紙参照）

（6）2月9日 委員会開催

ア 議題

調査・研究テーマ「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について

イ 調査 研究テーマに関連する本市の取り組みの概要（出席局・市民局、財政局）

（当局説明の概要を記載）

ウ 委員意見概要用※当日の意見概要を記載

（7）4月開催予定 委員会開催（※最終委員会）

（当局説明の概要を記載）

5 スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げについてのまとめ

委員意見等から導き出される本委員会のまとめを記載

■委員意見概要

第1回委員会(平成29年6月9日開催)

- (1) 議題「平成29年度の委員会運営方法について」
- (2) 運営方法(調査・研究テーマ)について意見交換
- (3) 主な意見

- 縦割りの部分で局の連携ができないという実情があると思うが、ラグビーワールドカップ2019と東京2020オリンピック・パラリンピックまであと2年間しかないという中で、ことし何をやるか、来年何をやるか、横浜市としてどういうおもてなしができるかということを議論したい。さらに、両大会後のレガシーをどう残すかということについては非常に重要と思っている。
- 去年も提案したが、スポーツコミッション的なものや、フィルム・コミッションのスポーツ版みたいなものを横浜市役所か体育協会で作ったり、その中で、例えば小学生のラグビー全国大会をやりたいということになったときに、いろんな小学校をすぐに紹介してあげられるとか、あるいは高校や大学のグラウンドを借りられるなど、そういうオーダーをワンストップで対応できる仕組みがあればいいと思う。
- 横浜国際総合競技場は、サッカー日本代表戦を埼玉スタジアムにとられてしまうケースが多い。これからラグビーワールドカップはやるが、横浜にラグビーのフランチャイズチームがあるわけでもないのだから、やったらやりっ放しで終わってしまうのではないかと危惧がある。そういう中でも大規模スポーツイベントを誘致することでスポーツの裾野を広げていくことは大事だと思う。
- まちの道場やさまざまなスポーツ団体が地域にはたくさんあるが、参加する人数が足りなくてやめてしまう種目もある。今のこの世界的な大会を盛り上げる時期と同時に、地域のバレーボールチームや卓球チームなど、地域に身近なスポーツが盛り上がる施策が打てればと思っている。
- 野球といえば甲子園、福岡だと柔道の大会、花園といえばラグビー、横浜はそういうものがない。市民が参加できる大きな大会を横浜でやれば、ホームでできるというアドバンテージがあるので、こういう大規模スポーツイベントの経験を踏まえて、全国の頂点として横浜を目指すような大会を築いていくことも一つのレガシーだと思う。
- 横浜国際総合競技場をうまく活用しなければ税金の無駄遣いになるし、やはりつくってよかったねと言ってもらえるようにするのは我々議会の仕事ではないかなという思いがある。例えば多くのスタジアムの中にはミュージアムというものがある。横浜国際総合競技場にもサッカーワールドカップのグッズや、ユニフォーム、サザンオールスターズのコンサートやAKBの総選挙に関連するものが飾ってあるので、これらをミュージアム的な形で整理してほしい。そして大規模スポーツイベントのレガシーも形にして残すことで横浜国際総合競技場が使われていない日でも観光客が行って楽しめるように今のうちから準備しておく必要がある。
- 市民が野球などスポーツをする場所を確保することが難しい状況だが、横浜市が所有している土地で活用できていないところや、学校予定地で確保していたが子供が減り不要となった場所を使うことができないのか。横浜市、国・県含めて、公の土地が地元の子供たち、お年寄りも含め市民が伸び伸びと、すがすがしく運動やスポーツをすることができる場になるよう検討をしたい。
- 地域スポーツの裾野をどう広げていくか、さらに、グラウンドをどう活用していったらいいの

かという議論が去年も同委員会に出ていた。昨年作成したスポーツ施設、運動場所等の一覧表を今年度の委員にも共有し横浜のグラウンドの使い方について検討をしたい。

- 地域のスポーツチームは、少年野球やサッカーなどいろいろあると思うが、どういうチームがあり、どんな人がいて、どんな方が活躍しているというデータを地域のスポーツチームや学校の単位で見える化をする必要がある。違うスポーツ種目間での交流や情報共有をどうやって促したらいいのかということも含めて検討したい。これはメジャースポーツだけではなくマイナースポーツをどうやって広めるか、新しい仕組みづくりとしてITなど何を使うのかはあるが、横浜ベイスターズが言っているスポーツ掛けるクリエイティブという視点も持って検討をしたい。
- 運動やスポーツの裾野を広げることは大切で、健康でいえば介護予防にもつながると思う。また、もう一つの指標としては、子供たちの運動能力について、全国でどこの地域が1番だとか発表される場面で横浜市が上位になるためにどのような取り組みをしたらいいか、高齢者と子供たちという両面で調査研究ができればと思っている。
- 健康づくりとかスポーツについて各局の施策がいろいろあるが、それが全体としてどういう効果を上げているのかという視点が必要ではないか。どうやって検証するかは、手法も含めて、まだ確立はしていないと思うが、例えば介護予防で何が効果的なのか、また横浜市全体とすれば、生活習慣病の指標がどうなっていて、健康づくりやスポーツの施策をすることによる健康面での効果をどうすれば検証できるのか調べる必要があると思う。体を動かすことで健康になるとか、自分たちのためにいいことだという、その効果の部分を見える化し検証することで、より多くの人々が健康やスポーツをすることを促すきっかけになると思うので、他都市の事例も含めて検討したい。
- ラグビーワールドカップ2019と東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて横浜ビジョンが策定されているが、その中に、障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことができるよう、広く社会全体に向けて障害者スポーツの推進に取り組みますという項目についての検討をしたい。

第2回委員会（平成29年8月31日開催）

- (1) 議題「平成29年度の委員会運営方法について」
- (2) 運営方法（調査・研究テーマ）について委員長より説明。市内におけるスポーツ施設・運動場所等の一覧を再配布し委員長より資料の概要等を説明。ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて市民局より説明聴取。
- (3) 主な意見
 - ラグビーワールドカップ2019の開催が迫っているが、まだまだ盛り上がりには欠けているという印象で、ことしの11月にあるオーストラリア代表と日本代表の試合が1つのメルクマールになると思う。また、サッカーの試合との関係では、芝の状況もサッカーとラグビーだと大分違うと思うがトップアスリートに最大のパフォーマンスをしていただくためには、やはり会場をきちんと整えることが大事である。横浜国際総合競技場の照明や芝生の整備などはスケジュール的な感じでロードマップをつくり、いつからいつまでは横浜国際総合競技場が使えなくなるとか、この時期はこんな工事をするとか、できるだけ早い時期にそういったスケジュールを公表していただくことも大事だと思っている。うわさばかり先行しており、一体どうなるのだろうかということを、サッカーやラグビーの関係者から伺っている。
 - 市立吹田サッカースタジアムを視察してきたが、最近のサッカーのスタジアムは観客と選手の距離が近い。驚いたのは、市立吹田サッカースタジアムは4万人入るスタジアムだが、それを

横浜国際総合競技場と比較すると、横浜国際総合競技場の客席の内側にある陸上トラックの中に市立吹田スタジアム全体がちょうど入ってしまう。これは吹田スタジアムの一番後ろの席で見ると、横浜国際総合競技場の最前列で見るとの選手との距離がほぼ変わらない状況となる。横浜国際総合競技場も本番に向けて、例えばランニングトラックの一部を観客席として開放するなど、臨場感あふれるプレーを間近で見る工夫をして、観客席と選手との距離を縮めるための努力が必要である。

- ソフトの部分についてどう機運を盛り上げるかについては、実際に競技場に足を運んでくれる層の人たちに対してのアピールがまだまだ足りない。小学校訪問事業で小学校に何回行ったという数字で、一生懸命頑張っているところは見えるが、小学生に対する事業はどちらかというところと長期的な視野で、将来的にオリンピックを育てるとか、ラグビーの選手を育成するということにはつながると思う。しかし、これがラグビーワールドカップ2019と東京2020オリンピック・パラリンピックの招聘事業のメインだと言われてしまうと、ちょっと違うのではないかという感覚がある。

特に東京2020オリンピック・パラリンピックに関しては、横浜はサッカーと野球とソフトボール、この3つに絞られている。ほかの競技を一生懸命、醸成や育成、気分を盛り上げることは多少横に置いてでも、ソフトボール、野球、それとサッカーに特化して取り組む必要があるのではないか。ほかをおろそかにするということでは決してないが、メインをどこに持っていか選択と集中的な考え方で予算を配分して、限られた予算の中でいかに横浜を盛り上げていくか考える必要がある。

- ラグビーの日本代表戦が11月4日にあるが、横浜国際総合競技場で5万人以上の人たちが来て代表選ができるのは、あと1回、2回、あるかないかだと思う。本番のシミュレーション的な意味でも大事な機会になるので本番と同じような形でシミュレーションをしてみるということが大事である。例えばロンドンの大会のときには競技場の外側にファンゾーンがあり、試合会場に入れなくてもスクリーンで観戦できて会場の周りではいろいろなイベントを朝から一日中楽しめる。去年、味の素スタジアムの試合のときには、1回それに近い取り組みをしており、東京都はそういうノウハウを積み上げなくてはという意識が非常に高い。横浜市も本番に向けたたりハーサル的なことをして大規模イベントに向けた準備を進めてほしい。

- 体育協会、港北区、慶應大学のラグビー部が協力して、小学生を対象にラグビー体験会を行っている。ラグビーは野球やサッカーに比べてまだまだ裾野が広がっていないので、少しずつでもこのような取り組みをやっていかなければいけないと思う。

- 横浜市として、これから何をどれぐらい解決していかなければいけないのか、全体像が見えてこない。ハードの面ではこれ、運営上はこれ、そして市民との関係として機運の醸成について課題を整理し何が問題か議論することが必要である。横浜ビジョンは、表現が抽象的で目標的な感じもあるため、具体的に何をクリアしていかなければいけないという指標が必要である。これはハード面、ソフト面それぞれ事業費にもかかわることで、限られた財源の中でどのように財源を配分していくのかはすごく大事である。

大規模スポーツイベントをきっかけにスポーツや運動に関心がない人を含めて市民にスポーツに接する機会や環境をつくれるのかどうか早目に課題を抽出し、そこに事業費を充てられるか整理した上で議論することが必要である。

- 市民が地域の身近な場所でスポーツに親しめるのかということに問題があり、野球をやるにしても、場所がとれず探すのにほかの区まで行かなければならないこともある。市民のスポーツや運動にかかわる日常的問題と、両大会を成功させようという話にはまだまだギャップがある。大規模スポーツイベントに向けて機運を盛り上げるというのであれば、日ごろ市民がスポ

ーツに関して思っているいろいろな問題意識や課題についてどのようにアプローチできるのかという意識を持つ必要がある。

- 大規模スポーツイベント開催に向けた機運の醸成やイベント開催に伴う経済効果、開催後にも残るレガシーの創出、国内外から訪れる皆様のおもてなしの仕方、これらを成功させるのは簡単な話ではない。民間であればイベントいろいろなプロフェッショナルを巻き込む宣伝の仕方がある。イベントのプロの巻き込み方、それから有名人やメディアを利用するやり方など横浜を代表するような人を使って、横浜のためにうまく宣伝してもらおうことも大切だと思う。

第3回委員会（平成29年9月28日開催）

- (1) 議題「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について
- (2) 横浜国際総合競技場の視察を通じた質疑、意見交換（市民局、環境創造局出席）
- (3) 主な意見
 - ラグビーワールドカップ2019のために改修費を約70億円投入し、横浜国際総合競技場の芝をハイブリッド芝に張りかえるが、FIFA、Jリーグ、日本サッカー協会もハイブリット芝を推奨し、神戸や埼玉もこれから変わっていくという話なので、今後も世の中の動向をしっかりと見きわめながら、よりよくなるようにする必要がある。
 - 横浜国際総合競技場をラグビー競技に適したハイブリッド芝に改修するが、プロスポーツ選手は環境が変わることにすごく敏感だと思う。Jリーグの選手は、今の天然芝とハイブリッド芝で変わったと感ずることもあると思うので、できるかぎり違和感がないように改修していただきたい。
 - 2002年のFIFAワールドカップのときの芝生をプラスチックに入れたしたものをメモリアルとしていただいたことがある。今回芝生をハイブリット芝にすることで不要となる芝はいろいろな活用の仕方があると思うが、横浜国際総合競技場の価値は、ワールドクラスだと思っている。普通の芝とは違う価値があると思うので子供たちに夢を与えるような活用の仕方など検討をしていただきたい。
 - 練習に使うサブグラウンドの小机競技場は2時間使ったら芝生を休ませなければいけないとかいう規制があるので、もし稼働を上げるのであればハイブリット芝への張りかえも考えていただきたい。
 - 市内視察の資料は、全部日産スタジアムと書いてある。ネーミングライツで日産スタジアムとなっているとは思いますが、国際的な大きな競技のときは横浜という名前が世界に知れたほうがいいと思う。横浜国際総合競技場は言いにくいけれども、横浜日産スタジアムとか日産横浜スタジアムとか、パンフレットに横浜と入れられないのか、市民の税金で建設費も維持管理費もやっているの、横浜という名前を世界に知ってもらおうという意味でも大事な機会だと思う。
 - 横浜国際総合競技場のピッチに立ってみると、ラグビーやサッカーの競技をするピッチから観客席が随分遠いという印象があるので、フィールド内に観客席をつくれるような工夫を考えていただきたい。例えばラグビーをやっている高校生や小学生などに招待席みたいな形で入れてあげる工夫をすることで観客動員数がふえる部分とピッチと観客席が遠いことを少し払拭できるのではないか。横浜以外にもランニングトラックがある競技場はあると思うので、一緒に研究しながら共同提案でもかまわないのでワールドラグビーや日本ラグビー協会に企画を提案してはどうか。

- 歴史のあるスタジアムでミュージアムがきちんとつくられているのは、世界標準ではないかと思う。横浜国際総合競技場ではサッカーの世界カップの決勝戦をしたことに加えラグビーワールドカップの決勝戦もやる。サッカーのクラブワールドカップ決勝戦もやるなど世界の中でも傑出している大会開催場所ではないかと思う。ミュージアムに関しては来年度あたりから調査費ぐらいは計上して、将来的にはどういう形でつくったらいいのか見据えた中での検討が必要である。
- 横浜国際総合競技場のロッカールームにブラジル代表選手のユニフォームが飾ってあるが、まだまだ存在が知られていないのではないかと。もっと横浜市民だけではなく全国に向けて、サッカーファンが見たら感動するような取り組みが必要である。ラグビーワールドカップ2019の決勝戦を行い世界的なスタジアムになるので、小手先の改革ではなくて、両大会が終わった後に、試合があってもなくても人が集まるような観光名所になるアイデアを市民の協力もいただきながら考える必要がある。
- 20年前は、サッカーだけではなく、国体などいろいろなことがあって横浜国際総合競技場ができサッカーワールドカップの決勝戦を誘致することができた。しかし20年たってスタジアムのあり方も変わっている。横浜国際総合競技場の魅力は2002年にワールドカップの決勝戦をやったということ、そして多くの人数が入れる大規模なメリットも生かしながら今後のことを考えると、どうしても大きなスポーツイベントを誘致していかなければいけないと思う。東京2020オリンピック・パラリンピックではサッカーをやることが決まっているが、当然日本戦を取りにいかなければいけない。サッカーの決勝戦の場所は東京の新国立競技場の予定となっているが、閉会式の関係で難しいという話もある。しっかり情報収集して、東京オリンピックのサッカー決勝戦を本気で取りに行くことが必要だと思う。
- 市立吹田サッカースタジアムのVIP席には、座布団が敷いてあるが、横浜国際総合競技場のVIP席は、プラスチックがじかに肌に当たるのでおもてなしという観点から見てもこのままでいいのかと感じている。クラブワールドカップやラグビーワールドカップ2019の決勝戦も寒い時期の開催であり、大きな経済効果を生み出すかもしれない方々が座る席でもある。少しの工夫がおもてなしにつながり場合によっては経済効果にもつながる可能性もあると思う。

第4回委員会（平成29年11月30日開催）

【議題】

- (1) 「スポーツができる環境づくりを初めとした大規模スポーツイベントに向けた機運の盛り上げ」について
- (2) ラグビーワールドカップ2019・東京2020オリンピック・パラリンピックの課題について市民局より説明聴取。横浜国際総合競技場の会場整備状況について環境創造局より説明聴取
- (3) 主な意見
 - 横浜国際総合競技場の整備費用については、大規模イベント開催のため想定してない経費が後から出てきて事業費が膨らんでしまうことが生じないか懸念している。限りある横浜市の財政状況にあって、結局大きなことはやらざるを得ないから、そちらに予算がいっぱい引っ張られることによって、市民のスポーツへの取り組みや身近なところでの健康づくりができる環境整備が疎かになってしまうことが起きないか心配している。大規模スポーツイベントにかかる事業費は今後の見通しと、その枠の中でどうコントロールするかを意識しなければならない。
 - 子供や障害者の方など身近なところでスポーツに親しめるような環境については、草野球をや

る場所1つ探すのに苦労しているという状況や車椅子で公園に入れなとか体育館に行くのも大変という問題等がある。すぐに解決はできないけれども、大規模スポーツイベントをきっかけに、5年後には公園のバリアフリー的なものはこれぐらい進むとか、それによって障害があっても外でいろいろ体を動かせる環境をつくらうとか、具体的な目標や計画が必要ではないかと思う。

- 横浜市が保有する未利用地をどう使うかはとても大事で、将来何に使われるかは全庁的な議論が必要である。財政的に寄与をするという意味では、即売却で現金にしてしまうという話になるが、売却の前に市民利用ということをまず優先的に考えるべきである。スポーツや子育て、学童保育も場所が足りない中で、市民の利用に資する土地があるのかなのか、もっと市民にも見える形での議論が必要である。
- オリンピックだけでなくパラリンピックも盛り上がっているが、スポーツをするきっかけがつかない、一步表に出られない、場所もないなどの話をよく聞く。障害者やその御家族の方たちも含めてきっかけづくりや、どういうところが大きな課題になっているのか、スポーツや運動をする場所に足を運んでいただいて、その施設の使いづらいつころを指摘していただく機会を持ってほしい。工夫をすればバリアフリーも含めて、学校の使われていない場所など各区でも身近なところでスポーツをする場が作れると思う。
- 大規模スポーツイベントで競技する人やスポーツを見に来る観光客も含めて外国人がかなりふえてくると思うが、外国人が救急医療にかかる時に言葉、保険、医療費が難しい課題となっている。国際都市横浜と言いながら、外国人の救急医療は難しいとか、命がかかって大変なときに、うちでは診療できないという情けない話はない。横浜市内の病院でも診てくれるところはふえてきているが、外国人に適切な医療をどう提供するか医師会、病院協会の先生方を含めてこれから検討していく必要がある。
- ラグビーワールドカップ2019とオリンピック・パラリンピックにおいて、外国から来る記者やメディアセンター対応はどうするのか。外国の記者はかなり長期間滞在するが、試合がないときに日本について取材したいという意欲がある。その中で横浜の魅力を発信してもらうためにも、取材してくださいというさまざまな情報を用意しておけば、広報費をほとんど払わずに横浜の魅力発信ができるのではないか。
- ラグビーワールドカップ2019では海外から40万人程度の観戦者が見込まれるが、泊まるのは横浜ではなくて東京のホテルというケースが多い。もともとの企画の中で横浜に泊まってもらうとか、観光政策とラグビーワールドカップ2019がどこまで連携し横浜というまちをどう楽しんでいただくかも含めて海外に売り込むための商品を提供しないとうまくいかないと思う。
- ボランティアの育成・活用については、まず人数を確保することが課題だが、同時におもてなしの質を上げていくことも考えなければいけない。宮古島市の全日本トライアスロン宮古島大会では島民が5万人ほどで、そのうちの10人に1人、約5000人がボランティアに参加しており、まちを挙げて全体で応援していくような雰囲気になっていると伺った。選手や応援に来る方々が長期間滞在していただけるような工夫として、大会前の開会式と懇親会をセットにし、沖縄らしい形でおもてなしをし、閉会式は大会の次の日にするなど、いわゆるレセプションをどう盛り上げるのか、どうやって楽しくするのか、参加率を上げるのかということなどの重要性を視察の中で感じた。ボランティアをふやすことと、ボランティアのおもてなしの内容についてはホスピタリティがあり、また横浜に来たい、温かいまちと思われるような工夫をする必要がある。
- 宮古島市のスポーツ推進計画について視察をしてきたが、横浜市のスポーツ推進計画との一番の違いは、いろいろな意味で漠然とした話ではなくて、数値でどこを目標にするのか宮古島市

の計画には具体的に書かれていた。横浜市は若干数値目標が少ないと感じている。今後の改善だと思いが横浜市のスポーツ推進計画は極めて大事なもので、数値目標の整理をして計画の見直しをしていただきたい。

- 横浜国際総合競技場は、包括外部監査で指摘事項があり保全計画が監査報告の中に書かれている。この中で平成24年度は収支10億円の赤字、平成25年度は12億円の赤字、平成26年度は11億円赤字、過去3年だけで30億円以上の赤字になっている。収支を抜本的に改善するような見直しをしなければならないが、毎年の改修も必要だと思う。テナントを入れて収入を得られるようなインフラに変えるとか寄附を受けるなど、海外の事例などもぜひ調査をして改善していく必要がある。
- ラグビーワールドカップ2019は2年先、東京2020オリンピック・パラリンピックは3年先でお尻が決まっているが、その割にスケジュールが見えてこないというのが一番大きい課題かと思っている。準備の段階で何をしていくか、イベントや事前キャンプ、ボランティア、それと大会の期間中に何をやるか、大きく3つに分けて整理をしていく必要があるのではないかと思う。イベントのプレスリリースで情報としては単発的にポツポツ来るが、あと2年間というカウントダウンの中で、いつ何をやるというスケジュールを出してもらい、それにかかわる恒久的な整備に横浜市として負担しなければいけないもの、県に負担してもらおう部分、国がお金を出さず部分、組織委員会が負担してやっていくことも当然出てくるし、企業やスポンサーシップによって賄う部分もあると思う。そういったところの整理をしていかないと、最終的にどんぶり勘定でやって、終わってみたらお金がこんなにかかったということになるのを、東京2020オリンピック・パラリンピックでもマスコミでは懸念している部分もあるので、ぜひ早急に整理をしていただく必要があると思う。
- 大規模スポーツイベントで横浜青年会議所、商工会議所、ライオンズクラブ、ロータリークラブの人たちは協力したい気持ちはあるが、どういうメニューがあり自分たちがやれることが何かかわかっていない。また、ボランティアを集めるのは大切けれども、既にある市民団体が何か相談する窓口も現状はない状況である。イベントをやる力を持っている人たちに能力をきちんと発揮してもらおうことも行政としての責任の部分だと思うので、具体的に何のイベントをやるか、誰が主体となっていつやるのかなど早く発表していただきたい。
- 横浜ベイスターズがクライマックスシリーズで広島に勝って、いよいよ日本シリーズというときに、金沢区役所や市民局と相談して、八景島のスクリーンでパブリックビューイングができないか相談したが日本シリーズが始まるまでの間が余りにも短過ぎてできなかった。しっかり今から準備をしておけば、パブリックビューイング的なことは、例えば八景島でかなり高い確率でできると思う。ラグビーに限らず野球やサッカーでも実績を積みむことで、お客さんが定着をしていけば、ラグビーのときにファンゾーンをそこでやれば皆さん集まってくれると思う。
- 横浜国際総合競技場で大規模スポーツイベントをやっていることがあったとしても、ほかの周辺区の人たちはなかなか関心が薄い。大規模スポーツイベントの機運を高めかたとして、大きいスクリーンを使いみんなで応援する場はもっとたくさんあっていいのではないか。あまりやり過ぎて競技場そのものにお客さんが来なくなっても困るが、横浜市18区それぞれに盛り上がり広がるような工夫は、それが一番早いような気がする。プロ野球は頻繁に試合があるので、実証実験的なことを始めればまだ間に合うと思う。大きなスポーツイベントで横浜全体を一体化させるための一つのレガシーをつくれるのではないか。
- 競技会場における各種計画、危機管理、交通輸送、救急医療等については、当然計画を策定し実施は本番になるかと思う。どこにこの指示は出せばいいか、必要な機材はどこに発注すればいいか、意外に専門家が集まってもわからないということもあるのでシミュレーションも含め

て訓練体制をとっていただきたい。

- 大規模スポーツイベント開催に向けてメルクマールになるようなものとして何が足りていないか、それが共有されないと、オール横浜で取り組めない。ロードマップの共有が、まさにオール横浜で推進するかなめになっているので、横浜市の取り組みを毎年柔軟に改定するというのは、まさに点検・評価ができず進捗もわからないのではないか。オール横浜でいろいろな市民や企業が能動的な取り組みや創意工夫をしようと思ったら、単年度、単年度で柔軟にということではなく、全体に向けて少なくともこれをやりたいので、皆さんのアイデアとか御意見もくださいという姿勢でやらなければ、オール横浜の取り組みにならないのではないか。

第5回委員会（平成30年2月9日開催）

※本日の意見概要を記載